水産情報速報版

H20.　11.　7.　№1254
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011　Fax054-253-9343
編集・発行＝指 導 部 漁 政 課
URL:http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/

１．本会第 10 回理事会開催　平成 20 年度上半期の事業状況等を報告

本会では、去る 10 月 28 日第 10 回理事会を開催し、平成 20 年度上半期の事業・収支報告について審議を行い、承認を得ました。

当期の事業内容は主幹となる石油購買では取扱数量が減少したものの価格高騰により金額が大幅に増加、資材購買では配合餌料が魚病の発生が少なくて順調に推移、一方、販売事業では食の安全性を求めた国産ウナギへの志向の高まりの中、ウナギ加工製品が原料ウナギの減少による取扱の減少、また天草共販は生産量の減少等により取扱が減少したものの、経済事業の総取扱高は 5,524 百万円（計画比 55%、前年比 122%、以下同じ。）、事業総利益 239 百万円（67%、115%）と計画、前年を共に上回る実績となりました。

さらに、事業利益は、人件費等管理費の削減効果により 57 百万円の大幅増収、加えて事業外収支も計画どおりに推移したことにより経常利益は 70 百万円（203%、223%）と順調に推移しているが、下半期は国際的金融不安から石油価格も一転して下落する状況となり、今後の景気動向が本会経営収支に大きく影響を及ぼすことが懸念される旨を報告しました。

また、指導事業では伊豆漁協合併成立と合併不参加・要改善漁協に対する取組状況や石油価格高騰対策としての省燃油操業実証事業等への対応を重点に、また、漁協巡回による経営等各種指導、会員監査、トラフグ等の資源管理、密漁防止及びおさかな普及対策等の報告がなされ、温水利用委託事業では魚種別の種苗生産が概ね順調に行われている旨を報告し、上半期の事業報告及び仮決算収支のいずれも承認を得ました。

なお、先の監事１名の欠員に伴う補欠選挙は、無投票にて佐藤泰一氏（伊豆漁協理事）が当選し、後日開催の監事会で久米勇氏（吉田町漁協長）が代表監事に再任されました。

２．平成 20 年度　県農林水産業功労者表彰　漁業関係者３名が受賞

県、農林水産業の関係団体で組織する静岡県農林水産業振興会(会長：石川嘉延県知事)では､9 月 16 日に開催した県農林水産業功労者等表彰選考委員会において､表彰受賞者 43 名(うち団体 1)を決定しました。水産業部門６名の表彰受賞者のうち、漁業関係では、本会並びに県信漁連が推薦した、内野　勇氏(遠州漁協組合長)、白石嘉男氏(静岡うなぎ漁協組合長)、宮原淳一氏(由比港漁協組合長)が、本県水産業の振興発展に貢献した功績が認められその栄誉に輝きました。ここに受賞された皆様に衷心よりお喜びを申し上げます。

なお、表彰式は 11 月 4 日県庁にて執り行われました。

３．高校生がアイディアおさかな料理を競う　　－県おさかな普及協議会－

県おさかな普及協議会(会長：橋ヶ谷善生県漁連会長)では、10 月 4 日鈴木学園中央調理製菓専門学校静岡校(静岡市葵区)において、「第 4 回高校生おさかな料理コンクール」の実技審査会を開催しました。このコンクールは、テーマを｢夕飯に食べたいお魚料理！短時間で作れる簡単レシピ｣として、県内の高校生を対象に、県内に水揚げされる魚介類、海藻類を使った高校生らしい独創性のあるアイディアお魚料理(レシピ)を募集したものです。実技審査会には、応募のあった県下 14 高校・127 作品のうち、既に書類審査会(1 次審査)で選考された 10 作品の入選者が出場し腕を競い合いました。

その結果、「太刀魚の和風サンド」を創作した、久永　栞さん(浜松市立高校１年)が栄えある最優秀賞〈県知事賞〉に輝きました。また、優秀賞〈県おさかな普及協議会長賞〉には、浅井麻里さん(榛原高校１年)の「あつあつキンメどりあ」が選ばれました。

同協議会では、これらの作品をレシピ集にまとめ、県下の高校、鮮魚小売店等やイベント時に配布し、家庭においても魚料理の献立の参考となるよう広く紹介していきます。

その他の主な受賞者と作品名は次のとおりです。(敬称略)

▽優良賞(2 点)〈県水産物商業協同組合理事長賞〉森野智絵(田方農業高校 3 年)「煮さばの生春巻」、〈県魚市場協会長賞〉石田有香(浜松江之島高校 2 年)「鰯団子と夏野菜煮込み」

▽審査員会特別賞(2 点)〈JF 静岡女性連会長賞〉渡辺佳奈(大井川高校 2 年)「えびたち色野菜豆腐あんかけ」、〈県料理学校協会長賞〉岡田真悠子(浜松江之島高校 2 年)「マグロのにこにこバーガー」

４．沼津地区養殖漁場見学会開催

本会では、10 月 23 日、県水技研富士養鱒場、内浦漁協、県かん水養魚協会の協力を得て、海面養殖業高度化推進事業(県補助金事業)の一環として､県内の消費者 21 名の参加のもと沼津地区養殖漁場見学会を開催しました。

これは、消費者に海面魚類養殖の生産現場を実際に自分の目で確かめてもらい、漁業者との意見交換会、養殖魚の試食を通して、養殖業の重要性・必要性を認識してもらうとともに養殖魚の美味しさ・安全性をＰＲすることを目的に開催したものです。

参加者は内浦漁港へ向かうバスの中で、事務局から養殖業について全般的な説明を受け、到着後、用意された遊漁船に直ぐに乗り込み、内浦木負の養殖生簀へ向かいました。生簀では、漁業者からハマチ、マダイなどの養殖方法等について説明を受け、実際にドライペレットの手まき給餌を体験しました。

帰港後、内浦漁協会議室で意見交換会が行われ、養殖方法や魚の流通などについて、県かん水役員や県水技研研究員等から詳しく説明があり、随時質疑応答が行われました。

引き続き、昼食を兼ねた試食会では、養殖マダイ・マアジの刺身やカンパチの照焼きなどを食しその味を堪能しました。また、終了後のアンケートには、魚が美味しかったこと、養殖魚が安心・安全であると認識したという意見や餌が輸入ものであるということから真の安全が保証されるのだろうかという意見もありました。

５．「漁業者のためのライフジャケット着用推進ガイドライン」作成される　－水産庁他－

このほど、水産庁、大水、全漁連では、「漁業者のためのライフジャケット着用推進ガイドライン」を作成しました。ガイドラインには、対象者別に着用のポイント、チェックリストなどの情報が紹介され、なかなかライフジャケットの着用を習慣化できない漁業者などにはその道標として、漁協などにはその取り組み方法が分かりやすく示されています。

ガイドラインは 2500 部作成され、全国の漁協などに配布されますが、必要な部分だけを印刷して講習会等で配布できるように､下記の水産庁の HP アドレスからファイルをダウンロードできますのでご利用下さい。

水産庁　http://www.jfa.maff.go.jp/j/koho/bunyabetsu/pdf/lj_gaidorain.pdf